

AMDA 佐賀での活動報告

大雨被害派遣看護師ら3人

国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）は5日、同市内で会見を開き、記録的な大雨で冠水被害に見舞われた佐賀県に派遣していた県内の看護師ら3人による活動報告を行った。

AMDAによると、

3人は8月29日～9月3日、九州北部を襲った大雨で深刻な被害を受けた佐賀県大町町で活動。AMDAと相互扶助の連携協定を結ぶ佐賀市内の病院を拠点に、町内の避難所を回って被災者の健康状態の把握や医療ニーズの

調査などに当たった。共有方法など、西日本会見で橋本千明さん（39）は「避難者情報のウが役立った」と振り



佐賀県大町町で避難所の運営会議に参加するAMDAから派遣された看護師ら2日（AMDA提供）

豪雨で蓄積したノウハウが役立った」と振り返り、山田章博さん（45）は「現地の町職員は通常業務をこなしながら避難所運営を担い、人手不足の状態だった。日頃の準備の重要性を再認識した」と話した。（伊丹友香）